

種なしぶどうの短梢せん定講習会資料

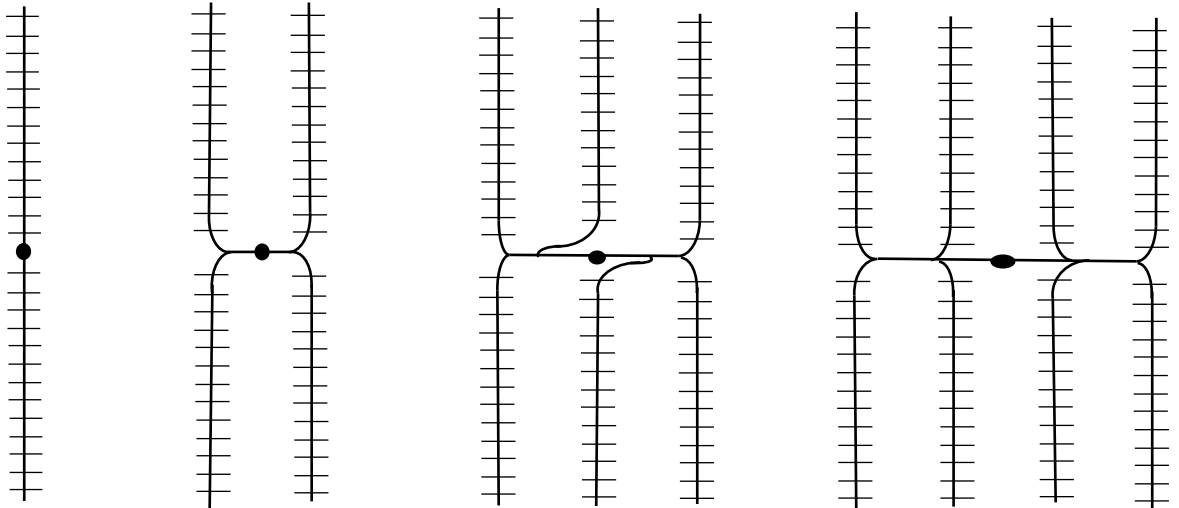
令和7年1月
J Aグリーン長野営農販売部

○今回講習会での主な用語

- 主幹部** : 土際から主枝を分岐するまでの幹となる部分。
- 主枝** : 主幹部から分岐する骨格枝。半永久的に使用する。
- 結果母枝** : 1年枝。前年の新梢。
- 基底芽** : 写真を参考に。結果母枝の一番基の芽。180度の位置に2芽ある。
- 一芽剪定** : 基底芽から先端の2mm~10mmぐらいにある芽。
- 不定芽** : 結果母枝の芽以外から発生する芽。旧年枝の節部から発生することが多い。
- 犠牲芽剪定** : 枝の枯れこみを防ぐために、組織の硬い芽(節)で剪定すること。
- 芽傷処理** : 枝先端からの養分を止めて発芽を促す。
- 芽座** : 本年の新梢を出す場所。

1 短梢せん定の基本樹形

おすすめ！！



一文字整枝

- 早期成園化可能
- 初期収量が高い
- 間伐樹には最適
- 強樹勢化が早い=早期更新
- 苗木本数が多く必要

平行整枝H型

- 基本的なスタイル
- 肥沃な土地では強樹勢化しやすい
- 強樹勢は早期更新
- SSでの消毒時に邪魔になる

平行整枝セミW型

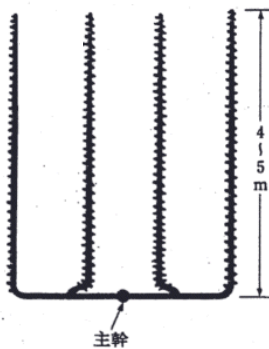
- H型とWH型の間スタイル
- 肥沃な土地では推奨
- 樹勢の旺盛な品種にも推奨

※がら地でも堆肥や肥料の施用過多は肥沃地に近くなる(土壤診断)

※SW・WHは5年目頃目安で樹勢

平行整枝WH型

- 樹幹拡大が図れるため樹勢は落ち着きやすい
- 主枝形成に難しさを伴う
- 樹形拡大年数を要し、初期収量が劣る。
- 肥沃地推奨



U字型オールバック整枝
(傾斜地に採用)

◎短梢栽培に向かない品種

翠峰、サンヴェルデ、ウインク、ロザリオピアンコ

◎短梢栽培で問題がある品種

安芸クイーン、ゴルビー、(着色、房持ち不安定)

短梢の樹形と主枝長(およその目安)

品 種	樹冠面積	主枝長の目安		
		4本主枝	6本主枝	8本主枝
ピオーネ	75m ²	6~8m	5m	
ナガノパープル	75~100m ²	7~10m	6~7m	5m
シャインマスカット	100m ²	8~10m	6~7m	5~6m
クイーンニーナ	50~75m ²	5~7m		

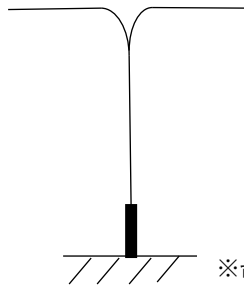
※クイーンルージュ® :H型では樹幹拡大完了時強樹勢化が懸念される

※土壌により主枝長は加減する

2 主枝の育成 ※樹作りは夏場の摘心も重要！

(1) H型

1年目



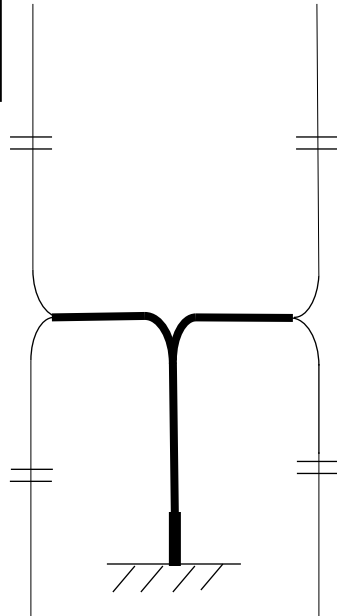
・好適樹相を目指すには1年目は棚上に上がるぐらいが望ましい。
 ※前年の新梢時に摘まむ摘心(生長点のみ)を実施。

※台木部分は必ず地上部に出すこと

2年目

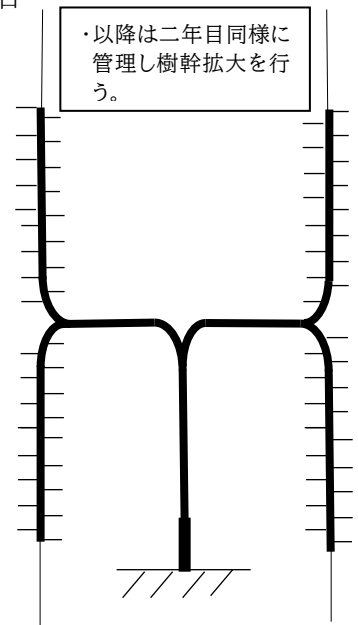
・各主枝をそれぞれ分岐点から切り返す。
 →芽数は15~25芽を基本とする。(樹勢に応じて)
 強く伸びる場合は夏場に摘心。

・この段階で確実に1芽剪定を行うこと。
 ・ここで2芽剪定以上してしまうと、先端の芽の発芽が優先され基部側の芽が発芽しないことが多いため、結果位置が主枝から遠くなってしまいます。



3年目

・以降は二年目同様に管理し樹幹拡大を行う。



(2) SW型【推奨】

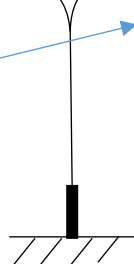
1年目 (1つの図で2パターン説明)

・好適樹相を目指すには1年目は棚上に上がるぐらいが望ましい。
 ※前年の新梢時に摘まむ摘心を実施。

内側の主枝を出させるあたりは、片側左右に5芽以上目傷を入れて、その中から弱~中庸で上部から出ていない新梢を選んでいくようにする。
 強い新梢や主枝分岐部から近いと内側の主枝が勝ちやすい

× 伸びすぎ

◎ 夏季に摘まむ程度の摘心をし生育を遅らせる。



※台木部分は必ず地上部に出すこと

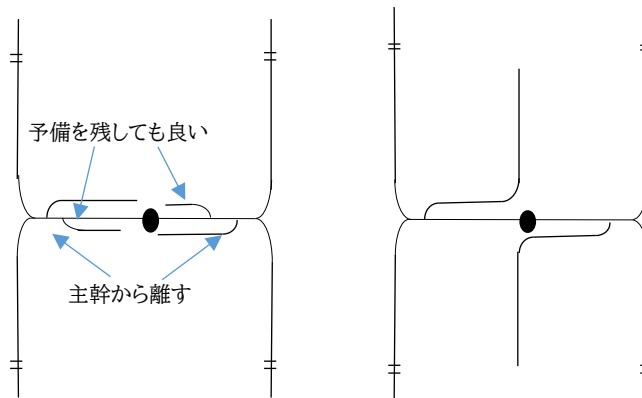


2年目

◎良い伸ばし方

×内側主枝伸ばしすぎ

1. 外側の主枝は H 型同様に切り返す
2. 外側主枝より内側主枝が強くなりやすい。
重要！！
主幹部から距離を離して、弱めの新梢や夏場の摘心で遅らせる。



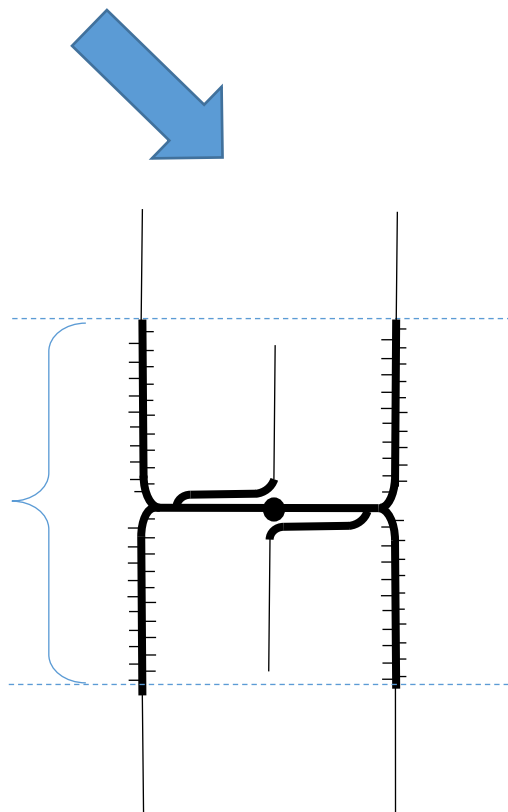
3年目

・主枝延長枝はH型同様に切り返す

・ここで2芽剪定以上してしまうと、先端の芽の発芽が優先され基部側の芽が発芽しないことが多いため、結果位置が主枝から遠くなってしまふ。

4年目以降

以降は、H型同様樹幹拡大を図る。
内側の主枝は、強くなりやすいため外側主枝の延長が完了した翌年～翌々年に完了するのが望ましい



3 結果枝の切り方

(1) あらせん定

雪害防止のため、降雪前に新梢を20cm程度で切除し、ぶどう棚に積雪しないようにする。

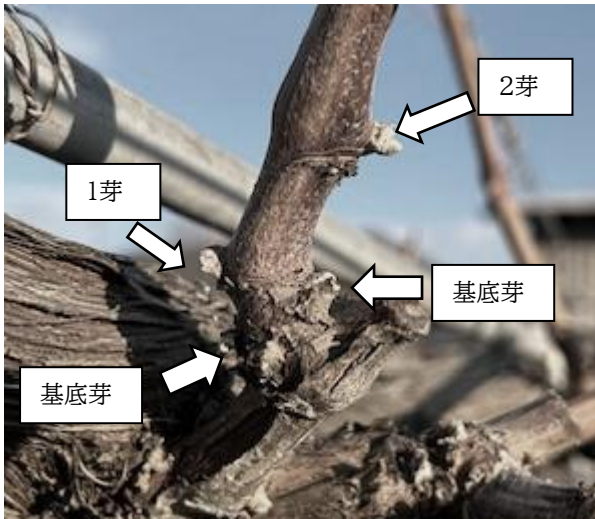
(2) 仕上げせん定の基本事項

① 誘引しやすい位置の芽を残すようにする。

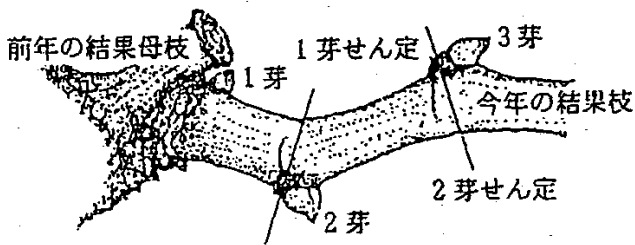
② 下図 a の 1芽せん定が良い。樹冠拡大中の樹の長梢部分から出た結果母枝を初めて短梢せん定する際は、節間が短ければ下図 b のように1芽せん定としたい。

③ せん定期は厳寒期以降がよい。切り口の乾燥や枯れ込みを防ぐため、塗布剤を塗布する。犠牲芽せん定で切る場合は芽をきちんと落とす。(節に芽を残さない)



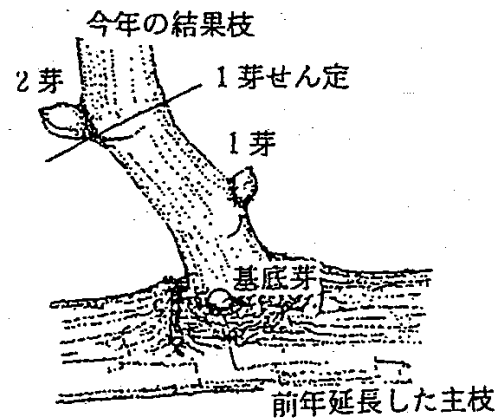


2芽目は発芽、伸長が早いいため新梢が揃いずらい。また、開花満開も早い傾向にある
また、剪定時同じ高さの芽に揃えるよう意識する。



a せん定方式

結果枝のせん定法



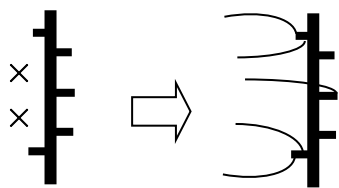
b せん定方式 (若木)

4 その他応用技術

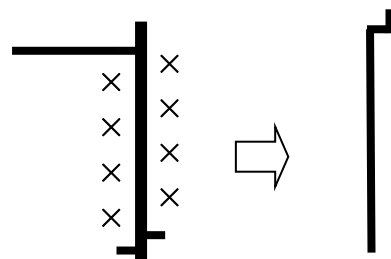
①欠損芽があった場合の対応

短梢せん定では、欠損芽は収量減に直結する。片側20cm間隔で新梢が欲しい。

両側は確実に2芽残し (シャインマスカットでは、1芽で切り基底芽も出す)、そこから新梢を発生させ埋める。反対側の結果母枝を誘引して対応してもよい。1メートル以上芽がとんでしまった場合は主枝を作り直す。

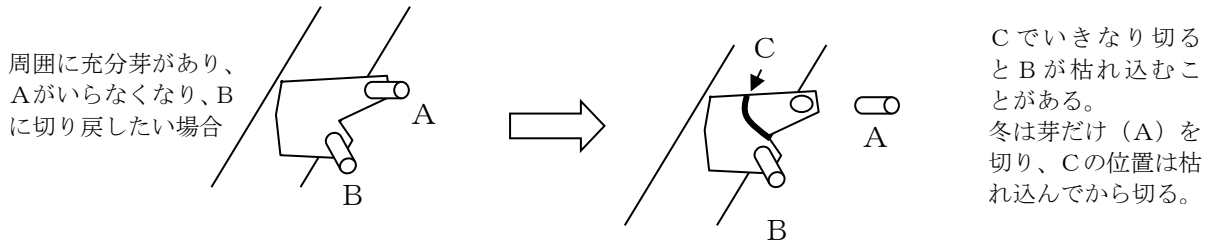


2芽欠損した場合は、隣や反対側の芽で埋める

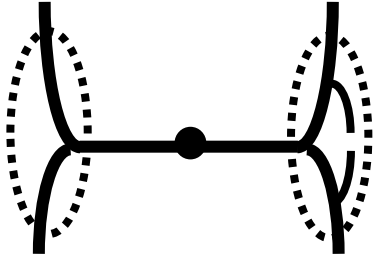


両側で1m以上続けて (おおむね片側4芽以上) 芽が欠損した場合は、結果母枝をつくり直す (目傷処理は必ず行う)

②芽座の部分には、結果母枝よりも太い切り口はつからないようにする（下図）。



③ナガノパープルの主枝分岐部分の品質

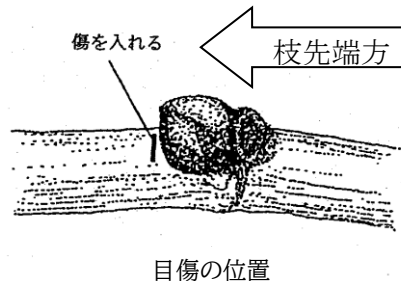


主枝分岐部分の房は新梢が強くなりやすいため、着色や糖度上昇が遅く、場合によっては熟さず裂果も発生しやすい。この部分の新梢はできるだけ整理し、先端側からの返し枝で棚面を埋めたい。目傷処理は必ず行う。分基部が混むとクビアカスカシバの被害を受けやすくなるので注意。

5 目傷処理（主枝先端長梢部が太く扁平な場合）

(1) 基本事項

- ①主枝先端の長梢部分がある場合は、先端2芽を除き全てに目傷処理を行う。
- ②せん定ばさみや鋸等で、芽の場所から先端部の方向に2～3mmの位置に、形成層に達する深さで傷を入れる。（浅く、広く）



(2) 実施時期等

- ①処理時期は、樹液流動（水上がり）直前が最も良い…発芽率90%程度は確保できる。
- ②枝の誘引を終わらせてから行う…順番が逆だと、折れてしまう！
- ③できれば目傷処理後、傷口にゆ合促進剤等を塗布して乾燥を防ぐ。
- ④メリット青1：水1の塗布も必要に応じ行う。